拓水

題字は　県漁連三浦会長

4月号
No. 103

発行所
兵庫県漁業協同組合連合会
神戸市兵庫区新在家町 123
発行人　三浦清太郎
TEL(67) 6301 6685
編集　拓水編集委員会
印刷所　日光印刷出版社
神戸市兵庫区北仲町20
昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

昭和四十年度

水産関係予算の概要について

兵庫県水産課長　三上尚直

昭和四十年代へのスタートの年となった今年は特に意義深く感じられるが水産業の発展は他産業のそれに比べて一朝一夕に或るものではなく長い間の業蹟の積み重ねによらなければならないと思う。

飛躍的発展ということは望ましいことに違いないが基礎の脆さがあっては実效は期し難い。一歩一歩踏み固めて前進することのほうが望しい姿であると考えられる。

本年度の水産関係予算の編成に当ってはこのことを基調としているので特に目新しい事項はないが、発展の基盤となることに重点を絞った。而し県財政の動向は決して楽観を許さない厳しい事情にありますので、日頃各界から寄せられた、御要望を総て充すことは困難でありましたが、重点的施策の遂行には積極的に取り組む所存でありますので関係市町をはじめ諸団体並に各位には私の意図するところを御理解頂き何分の御協力をお願いする次第です。

本年度の予算は前年度に比べ事項別には多少の凸凹がありますが、総体的には五千万円の増となっております。人件費の自然増並に市町営漁港費水産業振興対策費等の増額がその主なものとなっております。

㈠　**水産業振興対策、一三五、四〇七千円**　この内には経常的経費も含まれているが、経営指導栽培漁業促進対策水産物流通対策の外漁業構造改善対策改良普及並に漁業共済基金出資金等が組まれている。即ち漁業の近代化に対する施策を推進するものであって本年は水産資源保護水面を設置するための適地調査と県資の大型漁礁設置事業を新規に取り上げた。

㈡　**水産業協同組合指導費　一、一二七千円**　漁業者各位の活動の基盤である協同組合の検査並に業務運営の指導と整備促進並に合併促進に重点をおき運営の適正化と経営基盤の確立に資したい。検査対象組合数は一一二を予定している。

㈢　**漁業調整費　六、四二七千円**　漁業の調整活動の円滑を期するためのものであって海区、並に内水面委員会の運営費の外漁業補償対策漁船法等に基く取扱事務、並に漁船保険加入促進費補助が含まれている。

㈣　**水産試験場費　五二、六〇六千円**　水産試験研究に要する費用であるが前年度と大差はない漁業試験増殖試験等が主なものであるが、本年は水産加工試験調査費を倍増した。なお、試験船兵庫丸の老朽が甚しいので、代船を建造する間県漁業公社の第一兵庫丸を暫定的に傭船することにした。

㈤　**市町営漁港建設費　四七、二八九千円**　市町費の漁港修築事業（八ケ所）、海岸保全事業（一ケ所）局部改良事業（三ケ所）県単修築事業等である。なお本年度は第一、第二種漁港の修築事業費に対する国庫補助が地元漁業組合の負担を軽減する趣旨で若干増額されている。

以上は本年度予算の概要であるますが、総額五億六千六百二十一万四千円であって前述の通り前年に比べ約五千万円の増となっております。

但馬地区

海上防犯協会の発足

昨三十九年十一月当会評議員会において但馬地区海上防犯協会の設立を決定別紙会則を以って発足いたしました。同会則の定めるところにより会長には漁連会長が各単協毎に設ける支部には支部長として各組合長の就任を見、更に各支部より一名宛推進員の推せんを願い、この程その委嘱を了し名実共にその活動体制が確立されました。

つきましては沿岸各漁協組合員各位におかれても出漁中、若くは沿岸において不審船、不審者と覚しき事実がある場合は速かに推進員に連絡通報し本協会の目的達成に御協力下さるようお願いいたしますと共に本協会の事業遂行についてもよろしく御協力方併せて御願いいたします。各役員、推進員の氏名は別記の通り。

但馬地区海上防犯協会役員名簿

▼顧問　山本一男　舞鶴海上保安部長
▼仝　平原信一　香住海上保安署長
▲会長兼香住支部長　西上重弐　但馬漁連会長香住町漁協組長
▼副会長兼柴山支部長　小林松次郎　但馬漁連副会長　柴山港漁協組長
▼理事兼津居山支部長　浜本一三　津居山港漁協組長
▼理事兼竹野支部長　鳴海六在衛門　竹野浜漁協組長
▼理事兼余部支部長　友田源輔　余部漁協組長
▼理事兼浜坂支部長　安達吉造　浜坂漁協組長
▼理事兼諸寄支部長　大谷米造　諸寄漁協組長
▼理事兼居組支部長　岡本久五郎　居組漁協組長

備考　事務所香住町香住漁業センター但馬漁連内
電話香住六一一～六一三
担当者（主）作花　英治

（副）柴田　富夫

但馬地区海上防犯協会推進員名簿

▼津居山　大道博　豊岡市気比二・六五五　参事
▼竹野浜　八木稔雄　城崎群竹野町竹野　販売係
▼柴山港　金子正男　〃香住町上計　指導係
▼香住町　多田米治郎　〃香住町香住　製氷冷蔵課長
▼余部　藤原実　〃香住町鎧　専務理事
▼浜坂　仲邑要三　美方群浜坂町芦屋　監事　非常勤
▼諸寄　山崎正一　〃浜坂町諸寄　参事
▼居組　今木隆男　〃浜坂町居組　製氷係

但馬地区海上防犯協会会則

目的

第一条　この会は、但馬地区の沿岸の自衛と安全のため密出入国、密貿易等不法事犯および不察船、不審者の発見をなしこれを香住海上保安署に連絡通報することにより海上犯罪の予防と、拡大防止に協力し民警一体の実を挙げることを目的とする。

事業

第二条　この会は、前条の目的を達するため次の事業を行なう。

一、密出入国、密貿易その他海上事犯及び不審船、不審者等の発見体制の整備確立
二、保安官署との連絡通報体制の整備確立
三、海上警備活動に対する協力援助
四、海上警備思想の普及と広報活動
五、海上警備に功績のあった者に対する表彰
六、その他この会の目的達成に必要な事項

名称

第三条　この会は、但馬地区海上防犯協会と称する。

区域

第四条　この会の区域は但馬漁業協同組合連合会（以下但馬漁連）の地区とする。

事務所

第五条　この会の事務所は但馬漁連の事務所に置く

会員、賛助会員

第六条　但馬漁連及び、これを構成する。漁業協同組合（以下単協）は、この会の会員とする。

二、この会の趣旨に賛同する団体（前項のものを除く）官公署、もしくは個人は、この会の賛助会員とすることができる。

役員

第七条　この会に次の役員を置く

会長　一名
副会長　一名
理事　若干名

二、会長は但馬漁連の会長を以てこれに充て、副会長理事は、単協の組合長の中から会長が委嘱する。

顧問

第八条　この会は、舞鶴海上保安部長、香住海上保安署を顧問とする。

支部

第九条　この会の目的が確実に達成されることを期するため各単協毎に支部を設ける。

二、支部長は当該単協の組合長を以てこれに充てる。

推進員

第十条　各支部における、この会の事業特に第二条第一項の事項を強力に推進するため支部毎に一名の推進員を置く。

二、推進員は、支部の置かれた単協の役職員又は組合員の中から、当該単協組合長の推せんにより会長がこれを委嘱する。

会議

第十一条　会議は、役員会、全体会議、支部会議の三種とし、いずれも会長が必要に応じてこれを招集する。ただし支部会議については、支部長を招集者とすることができる。

二、役員会は、会長、副会長、理事を以て構成し事業の推進、諸計画、会則の改正、その他この会の目的達成に必要な事項を審議決定する。

三、全体会議は、会員、賛助会員、顧問、推進員等関係者全員を以て構成し、事業推進方法の普及徹底について協議する。

四、支部会議は、支部における、関係者を以て構成し当該支部の事業推進について具体的方法を協議する。

経費

第十二条　この会の運営に経費を必要とするときは、但馬漁連がこれを負担する。ただし、支部の経費は、支部の置かれた各単協の負担とする。

附則

この会則は昭和三十九年十一月二十四日より施行する。

海技従事者並に無線従事者養成計画及びその実施結果について

（但馬漁連）

当会は従来より指導事業の一環として無線従事者並に海技従事者の養成講習会並に定期試験を関係当局に依頼実施の結果下記の通り合格者が判明し春の出漁に一段その威力を加えることとなった。

尚、今年度の海技従事者養成計画は底曳漁船乗組員を対象とする両種船長、小型漁船を対象とする小型船舶操縦士の養成を既に別記の如く計画しその臨時試験の実施も神戸海運局に申込みしておりますので何れ正式決定の際は具体的事項を連絡いたしたいと考えている。

記

特殊無線技士（無線電話用）
講習会　2月9日～18日　浜坂町にて開催
定期試験　2月19日　浜坂町にて実施

合格者
元吉　治明　[illegible]造
中村　貞二（以上浜坂漁協）
中村　新一　田場　博
浜口　顕　浜辺　正夫
松本　為一（以上居組漁協）
竹蔵　英治　川井喜代松
大下　武雄（以上香住漁協）
計　11名

海技従事者養成計画
丙種船長
講習期間　七月一日～七月三十一日（一カ月）
講師　県水試　名角技師
臨時試験　何れも八月一日より
場所　香住町但馬漁業センター

灯台の新設（改装）

香住港航路標識事務所

一、新設

拾ケ鼻灯台　豊岡市田結字拾ケ鼻
構造　紅白横線塗円型コンクリート
高さ　水面上　五五・四m　地上　九・五m
光度　八・五〇〇カンデラ
灯質　群明暗白光（明3秒・暗5秒間2せん光）
光達距離　二〇浬
点灯　三十九年十二月十九日（現在波浪のため故障修理中、不動庁として点灯）

鎧港防波提灯台　城崎群香住町鎧
構造　紅色円型コンクリート
高さ　水高上　一一・八m　地上　九m
光度　八〇〇カンデラ
灯質　明暗交光（明三秒・暗一秒）
光達距離　一一・五浬
点灯　三九・一二・一〇

二、改装

香住港南防波提灯台、城崎群香住町一日市
構造　紅白円型コンクリート
高さ　一一・九m
光度　八〇〇カンデラ
灯質　明暗二秒交互
光達距離　一一・五浬
完了　三九・一一・一五

第七回全国漁協貯蓄推進委員会に出席して

兵庫県信用漁業協同組合連合会

去る二月十九日東京千代田区大手町一丁目の農林会館で、農林中央金庫と全漁連との共同主催で標記の大会が開催せられ、本県からは但馬の竹野浜漁業協同組合参事稲田堅治さんと、淡路の生穂漁業協同組合主任柳円平さんが選ばれて出席せられ信漁連からは山形瞬祀が同行することになった。

農協会館八階大会議室に全国三十七都道府県より漁協貯蓄の推進に貢献し今後更に指導的立場にたづさわる方として選ばれた組合役職員七十一名、それに信漁連より同行の役職員を加へ総数百余名着席、午前九時三十分開会、先づ農林中金楠見理事長から全国漁協貯蓄一千億円達成運動も着実にのびつつあることは誠に御同慶に堪へない。今後は中金、信漁連、漁協の三者が緊密な関係のもとに組合活動の全般の基礎が出来るよう一層皆様の御努力を願いたいとの御挨拶があった。

次で片柳全漁連会長より従来世界一を誇っていたわが国の水産も昭和三十八年度に於いてはペルーが第一位で日本は第二位となった。

この原因は従来沿岸より沖合に、沖合より遠洋にと発展していた漁業も最近では沖合、遠洋の方は国外の各種制約を受けて後退の状態である。然るに沿岸漁業の方は生産額は僅か乍ら延び進んでいるのである。これは養殖に依る高級魚介藻類の増産と高級魚価の値上りによるものと思われる。そして沿岸漁家の生活水準は都市、農村より少し高い

（2頁に続く）

今年のイカナゴ漁況について

（第三報）

①三月に入ってもまだ寒い日がつづいているが、海況はどうか

二月上旬に厳しい寒波が来襲してから、三月上旬まで目立った季節風は吹いていませんが、比較的今年の水温上昇はおくれ気味のようです。

二月上旬の大阪湾、播磨灘の水温は両海域中部以南は一月にひきつづきやや高目、北部では例年並となっていましたが、三月上旬の観測結果では、大阪湾一〇米層平均八・八度、播磨灘では八・三度を示して、例年より〇・五度内外低目となりました。

一方塩素量は播磨灘では多少低くなりましたが、なお二月に引きつづき播磨灘西部水塊の影響が目立っています。大阪湾でも例年より高く、湾奥の北東域の低かん水域はごく狭い範囲に認められるのだけです。

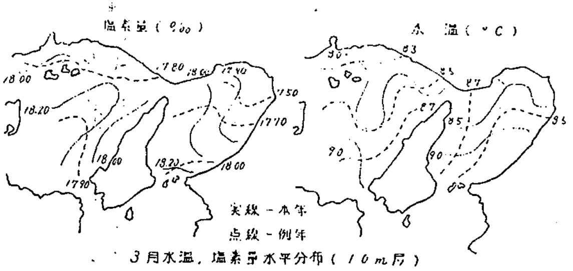
また両海域のプランクトンの出現状況は、播磨灘北面域をのぞいて全般に硅藻プランクトンが多くなっていますが、量的には例年と大差ありません。ただ大阪湾北部では三八年に多く現われた橈脚類（イカナゴの腹が黒くなる）の幼体がやや多く分布していますが、現在の海況では三八年程広範囲にならないと思われます。

②イカナゴ稚仔（シンコ）の分布状態について

前報（第二報）に二月上旬の分布状態について豊漁の年の昭和三六年、不漁の年の三九年及び今年の分布図を記載しましたが、親魚の年令組成一～二月の海況推移、産卵状況から、県下内海域での発生量は例年より少いと推定されます。これは主産卵域である播磨灘鹿ノ瀬周辺での発生群が大阪湾の方へあまり拡がっていないこと、その分布密度も小さく、また淡路東岸域での発生量も少いことなどによっています。

しかし、播磨灘では、西部域からの添加群が例年以上に多いので、両海域の合計では例年並といえます。三月上旬の観測結果を第二図に示しました。今年から採集法を少しかえましたので今までとれなかった大きさの稚仔も採集されていますが、去年まで三月の採集点は少いので比較する適当な資料が不足です。三七年にはほぼ同様の方法で多数点の曳網を行なっていますのでそれと比較しますと、今年は三七年と逆の分布で播磨灘に多いようです。

第1図



3月水温，塩素量水平分布（10m層）

③稚仔の成育状況はどうか

今年の当才魚の産卵盛期は、昨年十二月の二十日前後で、最近数カ年の中では最も早く、かなり成長したものも多く淡路南部（福良）ではすでに二月下旬からこませ網でとられています。

今年とほぼ同一方法で採集した三七年三月上旬の稚仔体長組成（第三図）と今年のそれを比べますと、分布域と採集量では前述のように全く逆となっています。

三七年は親魚年令組成で一年魚が非常に多く産卵量は例年以上とみられましたが、既報のように暖冬で一年魚多く、かつ播磨灘西部域からの添加群がきわめて少かったため、当才魚は本県内海の発生群だけによったと推定されます。また三七年の産卵盛期は一月上旬で今年よりおくれていますので、稚仔体長組成では五ミリ内外の差があります。さらに家島西部の測点で採集したものには、まだ六～七ミリのものが多く、その周辺及び以西海域での産卵期はかなり長かったことがうかがえます。

④本格的漁期に入るが、どう予測するか

こませ網1日1統当漁獲量
（3～5屯級に標準化）

年　次	漁獲量Kg
昭29	129
30	418
31	519
32	497
33	582
34	462
35	1,005
36	2,182
37	322
38	1,894

最近では、全般的な漁況予測にはかなり精度を高め得たと思いますが、まだ地域的には間違いが多いようです。

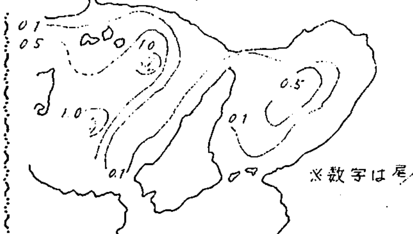
今年から播磨灘西部海域（一部空白の調査海域を残すが）での卵、稚仔調査が岡山水試で定期的に行なわれましたので、播磨灘の稚仔の分布発生群の識別には大いに参考となりました。

そこで親魚（フルセ）の漁獲は予測通り、多獲の期間短く、最近では最も少い年のようです。当才魚（シンコ）はすでに淡路南部（福良）でまず好漁を示していますが、これらの群は淡路南部及び播磨灘系のもので、高水温と餌料の点で成長の早いものです。

二～三月の稚仔の分布域、密度では、大阪湾（淡路東岸）ではあまり期待できないようです。淡路西岸、播磨沿岸では今月下旬頃からかなりまとまった漁獲を上げ得ると思われます。こませ網（三～五屯級）の最近の漁獲を表に示しましたが、漁期間平均（三～五月）では一日一統五〇〇キログラム内外の漁獲は期待できそうです。

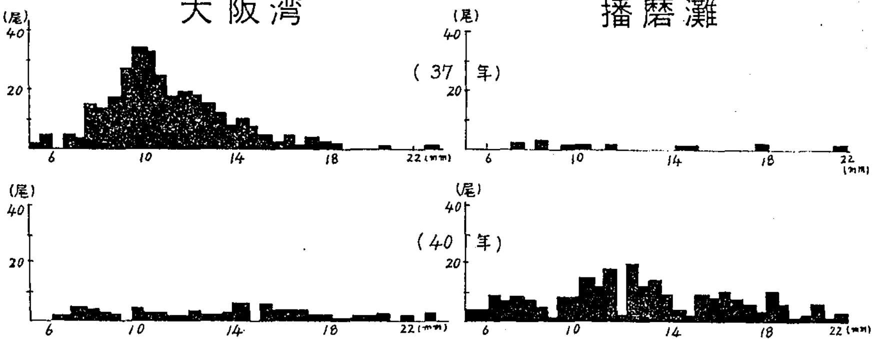
また、ぱっち網では養魚用としての需用量も一応算出されていますが、計画通りは達成されそうで、県下総漁獲量として、最近十カ年平均（一・四万トン）を二～三割方上廻ると予測されます。（水試・浜田）

第2図



イカナゴ稚仔の分布（40年3月）

第3図



イカナゴ稚仔体長組成（3月上旬）

（1頁より）

ということである。

漁村に於ける青少年は都市に流れて労働力は急に低下した。そこで昔に戻り三屯から五屯の漁船で恰も農村に於ける自作農のように内容的には極めて健実に漁礁などによって沿岸の資源を維持しながら中枢的漁業に依り組合を中心として共販事業を推進し、コストを下げ生産の増強を計らねばならぬ。幸い漁家は農家や都市勤労者に比べて経済余剰が多い。

構造の改善を積極的に実施し貯蓄の増強に依って組合金融を計りつつ漁業共済によって最少限度の保証を受け安定した経営を計ることに最近沿岸漁業の光明を持つに至った。と結ばれた御挨拶があった。

次で水産庁長官松岡亮氏より祝辞があり、終って全国各都道府県の漁協より選出された七十一名の貯蓄推進功績者に感謝状と記念品の贈呈が行なわれた。

それから屋上で一同の記念撮影が行なわれ、いよいよ本日の呼び物である貯蓄推進についての体験発表にと移ったのである。

わが漁協経営と金融

広島県井口漁業協同組合

組合長　村　上　透

わが組合は原爆の広島の中心より西八キロ、カキ、のりの養殖漁場のある狭隘の漁場である。

組合員数一八六名、あさり、のり、かん水養殖漁業、かき採苗養殖漁業が主であり、刺網、一本釣も若干ある昭和三十一年組合長就任当時はアサリ養殖と幼稚な海苔養殖をなし女子の漁業者が大半を占めていた。

漁船も二屯未満で零細漁業者である。

市内には銀行、信用組合、郵便局農協などの窓口は実に二百余、限りない競争の中にある。

組合長就任以来、のり、かきの人口採苗研究会を設けて採苗の技術研究と販路の開拓につとめ、一方婦人部の活動を活発にして家計の計画と貯蓄の奨励につとめた。

現在、のり、かきの種苗の販売高四千万円、購買事業としては主資材電化製品の取扱高一千万円、信用事業にあっては定期貯金二千万円当座貯金一千百万円合計三千百万円で四千万円を目標に目下努力中である。

楕円放談

(1)

（田 寺 伸 彦）

楕円球は青春のシンボル。一度落ちると、何の方向に跳ねるのか。これは相当に練習を積んでも一寸予測が難しい。

ミナト神戸にある県立水産会館といえば、大低の人は知っている筈だ。一度や二度なら行ったことのある人も数多いことだろう。しかし、県立但馬漁業センターのことを知っている人は案外少ないのではないだろうか。勿論但馬の人は別だけれども。山陰海岸の魚の町、香住には少々過ぎた建物かも知れない。そう思いたくなる程、鉄筋コンクリートの堂々たる近代建築だ。

竣工、昭和38年11月、工費、三千万円（半額地元負担）二階建、床面積、二七〇坪。

この中に水産に関係したすべての機関が集約的に配置され、有機的連繋を保ちつつ合理的且つ能率的な業務の推進に意欲的な努力と積極的な創意を惜しむことなく絶やすことなく……いや、まァそんなことはさて置き、とにかく色んな店が仲よく軒を並べているのだ。

但馬漁業協同組合連合会、但馬漁船保険組合、信漁連但馬支所、漁業共済組合但馬支所、但馬機船底曳網漁業協会、但馬海区調整委員会、豊岡農林事務所水産課、水産試験場調査船兵庫丸事務所、香住漁業無線海岸局、化学実験室、大会議室、中会議室、小会議室、電話交換室、娯楽室、宿泊室それにバス、トイレ。全館冷暖房なし。エレベーターもなし。漁業センターの隣、左は国の建物。水産庁、日本海区水研、海上保安庁の各出先。右は大衆食堂。前は道、裏は私の家。

要するに、こと水産の事務に関する限り至極く便利な仕掛けになっている。何かおついでの折には是非一度お立寄りを願いたい。

さて、楕円放談実はこんなことをくどくど書くのが本意ではありません。此処に書き並べた多くの機関にまつわる色々な話から私の連想を発展させ、それを私流に書きなぐってこの貴重な紙面を汚してみようかというのが本意。

この世の中には色んな商売があるのだが、やる人にとってまことに因果な年中無休という商売も幾つかある。香住漁業無線海岸局もこの年中無休の部、筆頭に属するものであろう。降っても照っても、夜も昼も一刻の休みもなく、正月もなく盆もなく、年がら年中ひたすら通信活動を続けて、漁船からの連絡をぢーっと待って待って、待ち続ける仕事なのだ。年中無休。

こんな商売は恐らく大昔は無かったのであろう。昼、男達は洞屈を出て獣を追い、女どもは料理を作り、奇妙な形の服でも縫ったことだろう。そして夜ともなれば誰もかれも皆んな寝て終う。静かになった夜更け、コッソリ活躍しているのは赤い大きな月と、若い猫と泥棒位いであろう。

しかし今は違う。悲しい事ながら昼働き夜は休むという考えは、も早や現代には通用しない。とにかくやたらと忙しく、めまぐるしい人間の世の中になって終った。

香住漁業無線海岸局は昨年兵庫県が六〇〇万円を投じて設置したSSB方式の新式無線局で、その運営は但馬漁業協同組合連合会が行なっている。藤原局長の下に5人の通信士がおり、四直、つまり一人6時間のワッチで一日四人。余った一人は休みである。

テレビ、ラジオ、電報電話と日常生活においても随分色々な形で私共は無線機械とおつきあいしている筈だが、いざ、これが送信機これが受信機これが発振機というように無線装置をみてみると門外漢にとっては、なんとなく不可思議な気がしてならない。

どうしてこんなもので遥か遠く海の彼方に居る人と話が出来るのか。電波というものが送信機から発射され勢よく空中を飛んで行く姿を、私の眼には見えないものか。専門の人から色々理屈を教えてもらっても、やはりそんな気持が残って終う。金属性の冷めたさと非情感を漂わせて並ぶ訳の判らない数多くの無線機部品の中にあって、私はあの小さな真空管にだけは限りない親しみを憶える。子供であった頃雑誌を読み、見よう見まねで組立た短波受信機にスイッチを入れると真空管の中のもっと小さな細いセンサイな部分に灯がともる。イロリの中に燃える炭火のような赤さでチカチカ輝き始める。同調ダイヤルを静かに廻すと、やがてスピーカーからガリガリガリッという雑音に続いて、どこか判らぬ外国の言葉と音楽が流れ出す。音の出どころが未だ見ぬ遠い異国の空であることが判った時、私はあの赤く燃える真空管のカソードの中にその国の美しい風物が隠されているようにさえ思えて夜更けの寒さも忘れて見守り続けたものだった。

香住漁業無線海岸局は中短波帯（2メガC）と超短波帯（27メガC）の二た通りの送受信機を、各々二台づつ持っており、これを駆

（3頁へ）

（思い出の記）

少年の屈詫

(3)

風来漁人

小学校にはいる頃になると藁を叩いてこれで草履（ぞうり）をつくり、それを履いて学校へも山へも行くのである。草履つくりは雨天の日に限られ天気がよいと畠の草むしりや山の松葉かき柴刈りなどをやる。

「こんな上天気に下駄をはいて歩く阿呆があるか」うっかり下駄をはいたら親からどなられた。

その頃壜菰（びんごも）という麦わらの家庭内職が流行し、農家も漁家も老人から子供まで精出してこれをつくった。これを問屋が買って大問屋へ集める。これで問屋商人はぼろもうけをしたそうだが、百姓や漁師から見るとたとえ商人が買入値段の三倍に売ろうと十倍に売ろうとそれは当り前の事で敢て怪しむに足りないことであった。登ることのできない山のようにこれを仰いで嘆息することさえ知らぬあきらめの中に住んでいるからだ。

私も小学一年の頃母や兄に習ってびんごも編みをはじめた。何日もかかって漸く二十五枚くくり四つを作り上げてこれを一束とし喜び勇んで問屋へ運んだ。百枚持ってゆけば現金三銭を即座に渡してくれるのだから大した魅力だ。胸をはづませながら店へ行ったが、そこの主人はあきれた顔つきで私の苦心の作品を眺めていたが、

「こんなものがゼニになると思うんか」

といってポーンと蹴とばした。驚いた私はコロコロと転がってゆくこもの束を追っかけて大切なものを失うまいとするかのように、これをかかえて逃げるように泣きじゃくりながら店を出た。

雨天の日にはわらを叩いて柔かにし、これで草履をつくった。初め頃のぞうりは前記のびんごものように奇怪きわまる前衛美術に類するものなので、

「真言繰ったら這い歩くぞうりだ」と父や兄から評されるのが常であった。つまりお経を読んだらぞろぞろ這って歩くという意味なので、その傑作ぶりがうかがえるというものだ。それでも山行きにも、通学にも結構これで間に合うから良い天気の日に下駄でもはいて居ようものなら

「この日和にカラカラと下駄なんぞはきくさって」と怒鳴られたものである。

山へ松葉かき柴刈にやられ畠の草とりをさせられるのは愉快なものではないから、隙があれば逃げ出して池のフナをねらったり、虎杖（いたどり）やぐみをとることがたのしみであった。そんなことをしているうちはよいのだが部下の悪童が何人かついて来ると唯事では済まない。水車小屋の麦臼の中へ土をほうりこんだり、わらぐろを池の中へ引っくり返したりする位はまだしも、調子に乗って渇水期の溜池の水門をあけ放し堤の上でごうごうと流れる濁水を見おろして一同で快哉を叫んでいたのはよいが村人が仰天して駈けつけて来るのを見て初めて事の重大さにおどろき、青くなってくもの子を散らすように山の中へ逃げるという一幕もあった。

生得の横車精神、叛逆精神がそろそろ頭を出してきたのかも知れない。

小川の水もぬるみ猫柳が芽ぶく頃になると磯のメバル釣りがたのしみである。細い竿に細いテグスであしらいながら引きよせ、たもですくい上げる面白さは静的な味わいがある。

イカナゴのふるせが出はじめると「エトコすくい」がにぎわう。これは動的で勇壮な漁である。鵜や海雀に追われたイカナゴは自らの群の中に頭を突っこみ次第に密集して水面から高くもり上がっている事さえある。こんな大群に出逢うと一とすくいで満船することもある。このエトコのもり上がりをかもめが見つけて集まって来て、それこそ上を下への大さわぎとなる。「そら上がった」というので各漁船は二丁櫓三丁櫓で必死になっての競争だ。力かぎりに漕いでいるのだが気があせっているので却々近付かない。昔の物語に戦に負けて逃げる時は馬の足掻きがもどかしく同じ所でおどっているような気がすると書いてあるが、エトコ船もその通りだ。折角漕ぎつけたのに鳥たちが船に恐れて離れてしまうとイカナゴも散ってしまい徒労に終ることは極めて多い。それはあきらめるとしても、一と足ちがいで他船に大群をさらわれる事がある。

私の父も腕自慢なのでエトコは得意であった。或時隣村の船と競争をやった結果一艇身で勝った。

「おれが見つけたのを横取りしくさった」というので相手はこちらの船腹へ激突してきた。バリバリと船べりが破れる。つかみ合れんばかりに双方いきり立った。その時父は

「わしのもんぢゃというのならお前の名前を書いた旗でも立てておけ」とやり返した。これは正面から理くつでなく、からめ手からの奇襲である。相手も虚をつかれて振り上げた拳骨のやり場がなかったらしい。

夏のいも畠の草とりなど退屈きわまるもので、夕立でも来んかなあと空ばかり眺めていた。これにくらべたら「いさり」の艀子（かぢこ）は多少の面白味はあった。しかし「押さえ、引かえ、押せ、押すな」と絶間なく櫓の押し方を変えさせられるので子供にとってはいやな仕事の一つであった。殊に冬のカキ取りの艀子は一番厄介なものであった。長い竿の先につけたタガネで海底の岩についたカキを打ち落とすので、これに力を加えると船は思わぬ方向に動かされる。半日もやっているとヘトヘトになってしまう。けれども、

「うもれ火のあたりのどかにはらからの、まどいせし夜ぞ恋しかりけり」

かまどの前に兄弟たちがならんでカキの貝焼を食うたのしさは昨日のことのようによみがえる。

いさりの獲物カレイコチなどは二キロ以上も離れた組合の市場へ運び入札して売るのであった。起きたら寝るまで走りまわっている私たちには、ざるを抱えて市場へ通うことなど一向平気で、いやな艀子をするよりはらくであった。五キロ位離れた町へ買物にやらされてもそれを大儀と思うことはなかった。けれども市場で腑に落ちぬことに出くわした。組合の役員あり共販の主任である市場のおやぢは漁師の持って来た魚をせり台の上に並べさせてから長いかぎをさしのべて、目ぼしい魚を一、二尾引っかけて手許のかごにほうりこむというやり方である。

もったいないということで漁師が口にすることもできぬ上等の魚を、ああまで沢山に取り込んで、どうするつもりなのだろう。当然の疑問を父にただす外ない。

「あのかごの魚は漁船一隻分より多い位で、あとでせりにかけたら大した金やろ」何故に漁師たちはそれをだまって認めているのだろうか？

「漁師は皆おやぢから金を無心している連中や、その金の利子が高いほど、そんな金ほど、漁師は恩に着るし、おやぢは威張るのや」

どうもわかったようで、わけのわからぬ話である。世の中の不合理、そういったことが次第にはっきりと具象化されて少年の心に人間への不信、社会への疑惑といった隙間風を吹き送りだした。

私はだんだん持ち前の陰うつな性格を助長させる事柄に、我と我から引っかかりを求めて疑い深い物言わずの少年になって行った。

組合長訪問

(3)

丸山漁業協同組合

組合長　浜田悦夫

当組合も昭和三十八年度より沿岸漁業構造改善事業としてタコ養殖事業を実施し、その結果地区の種苗タコの価格並びに市場販売価格の向上と餌料として小型機船底曳網で獲れる雑魚を使用することにより、商品価値が生れると同時、当組合の漁業状態から、一月～三月に宜り、西寄りの季節風の為、毎日休業続きでありますが、この事業をとり入れることにより休業のかたわら、タコ養殖により、多額の収入が生れ、従来に比して、漁家所得の向上が図られている。

又、一本釣漁者も共同により本年度よりワカメ養殖を開始、所得向上に努力し、ひいては漁家生活の向上に努めております。

このように、漁業者も一般企業に負けることなく、低所得を向上さす、互に協力団結を望む。これら、養殖技術を地区全体の漁家に導入し、益々漁船漁業との関連を強化しよう。共同出荷に於ても、組合員の強力な熱意と協力の基に、鮮魚運搬冷凍車、鮮魚運搬船を建造し、夢にまで見ていた。東京市場進出がはたされ、組合員一同このファイトを以って進みたいと念願しております。

漁村の新興対策と漁村青少年育成について

漁村の振興対策の一角を述べて参りましたが、この基本的考えに添って、将来は、最低賃金制、及び月給制度の施行により漁業者も昔のように働いて金を作るより、考えて金を作るよう方向を転じることが望ましく、個人経営体を集約し、協同相互の精神を養う必要があると思います。

次に漁村青少年の育成について

先に述べた漁村の振興、源動力となるものは、やはり青少年ではなかろうか。

現在、中卒、高卒生は企業といってよい程、なつかしき漁村を後に都会に進出する。では、漁村にはこのようにさみしくなる原因は必ずあることと思う。

第一に労働場所が少ない。
第二に職務は単純である。
第三に所得が低い。
第四に娯楽施設等の不備。

これらが悪条件となって道をふさいでいるといえよう。要するに、漁村に対する明るい道を作り導くことが欠けているのではないでしょうか。

私の構想として

一、月給制度の実施
　計画経済による資本の蓄積
二、勤労場所の拡大
　養殖並びに加工場等の施設々置により研究による勤労意欲の増大。
三、労働の能率化
　共同経営により労力の専問化（細分化する）
四、住宅難の解除
　集団漁民アパートの設置。
五、娯楽施設々置により、一般知識の教養を高める必要な、研修会並びに図書施設の設置。
六、退職年金制度の確立。

以上の各項目に宣り一日も早く解決することにより青少年の漁業に対する着業率の増加が図られることだろう。最後に、漁業者も自から職業に対する研究心と熱意を持って、互に協力しようではないか。

（2頁より）

使して所属漁船約三〇〇隻と昼夜の別なく連絡を取り続け海上の安全と漁獲の増大を図っているのだ。

「2182」ニイ、イチ、ハチ、ニイ、これこそ中短波帯の国際遭難通信用周波数であることは、関係者以外には余り知られていないことだろう。荒れ狂う洋上遥かから、海の男達が万策尽きて救助を求める悲痛な叫びを伝える一刻の猶予もならない遭難通信に使う波である。世界中の海岸局受信機も船舶局受信機も2182は何時も沈黙しているのが一番良いのだ。しかし各無線局は2182のワッチをしない訳には行かない。受信機の沈黙を期待し乍ら、しかも一言も聞き洩すまいとワッチを続ける通信士の胸中は苦しい。気圧配置が西高東低の冬型となり、冬の日本海に北西の風が日増しに強く吹き始めると、但馬の海はズワイガニの漁期に入る。全く荒化の多い冬期間が機船底曳網漁業の盛漁期であることは皮肉なことである。

そして多くの人の期待を裏切り乍ら2182の飛び交う夜が次第に多くなって行くことは悲しい。

十二月一月頃の新聞の片隅に漁船遭難の報がない朝が果して幾日あることか。遭難漁船乗組員の救助率、生存率のいかに低いことか。漁船の遭難ほど悲惨なものはない。

それでいて他産業の事故に対するほど社会問題として騒がれもせず、遭難防止のための基本的な対策を業界と関係機関において、どうしても樹てようとする強力な動きも今だに現れないのは何故なのか。

「緊急、緊急、緊急こちら第10金城丸、応答ください、こちら第10金城丸」

「第10金城丸、第10金城丸こちらJHO2小樽です。どうぞ」

「神威岬ウエス、ノー、ウエス80浬、機関故障、浸水漂流中です。修理の見込みはたちません。現場は雪。風力8、風向ノーウエス、どうぞ」

「第10金城丸、カムイW NW80浬、了解しました。直ぐ救助手配します。ラジオブイはありますか、どうぞ」「こちら第10金城丸、船体傾斜がひどい。積荷を放棄します。救助を頼む。救助を頼む。」

「第10金城丸、第10金城丸、こちらJHO2オタル、応答願います。金城丸応答願います。」

「緊急、緊急小樽保安、小樽保安三三〇カムイW NW80浬で鮭漁船一隻遭難。附近船舶は捜索願います。小樽保安、小樽保安」

「緊急、緊急、緊急こちら巡視船大王、巡視船大王、ムロトSE一四〇浬で鮪漁船第八共同丸が遭難浸水の模様、ムロトSE一四〇浬で……」

シベリヤも間近い北海道沖から、遠く黒潮の流れる太平洋から救けを求める切なげな声は直接連絡の要のない香住局にまでも、キレギレには届いてくる。そしてその最後は何れもどうなったのかよく判らぬままに時間は過ぎて終うが、恐らくは何人かの漁民が暗く冷めたい荒天の洋上に投げ出され、更に気の毒な幾人かは親しい人達に限りない悲しみを残して空しく死んで行ったのであろう。

しかし、昨年の12月6日早暁、香住局は直接2182で呼び出しをうけて終った。

「緊急、緊急、緊急こちら栄祥丸、JFIどうぞ、こちら栄祥丸、JFIどうぞ。」

「栄祥丸、栄祥丸こちらJFI香住海岸局です。どうぞ」

「〇三二五頃隠岐島北方一四二番漁場、SE30分のところで柴山海運丸の船員一名が海中に転落した模様です。どうぞ」

「海運丸の船員転落了解。海況はどうですか。貴船の位置も知せてください。どうぞ。」

大変なことになった。一刻も早く救助しなければならない。

2182は香住、舞鶴保安、境保安、現場附近船舶の間に雷光のように飛び交わされる。

「緊急、緊急こちら大正丸、境保安川チドリどうぞ、川チドリどうぞ」

「大正丸、こちら川チドリ、風浪強く本船の航行は困難です。どうぞ」

「緊急、緊急、緊急境保安、境保安、オキ北方一四二番漁区で転落事故、オキ北方一四二番漁区で……」

「只今一二九番波高く捜索困難です。大正丸と並んでいます。」

「……」

柴山漁業協同組合所属中型機船底曳網漁船海運丸は荒天続きのオキ北方漁場での操業を12月6日〇三〇〇に切り揚げ母港に向けSEに針路をとったという。昼夜の別なく数日間に亘る激しく苦しい漁撈を終えて、疲れ果てた船員たちはホッと

（4頁へ）

助六放談シリーズ ③

強精食

　俗に食物の好ききらいは助平根性に影響されるところ少くないといわれる。例えば好んでニンジンを食べるのは好色の故だといい伝え、チーズはアーニズムのズイまでトロかすといわれる。

　私はニンジンの場合は、色が真っ赤で色ごのみに通ずるので、さもあろうかと子供ごころにふと思ったこともあったが、それでもよくものかげで、ひそかにナマのままかじったことをおぼえている。あとでニンジンには多量のビタミンAが含まれ、ビタミンB、Cもかなりあることを知ったがそのころは、ニンジンよりも長芋や納豆を好んでいたのである。生ニンジン強精食のつくり方をご披露におよぶが、果してお役に立つかどうかは別として、Y学の資ともなればもっけの幸いである。

　それはニンジンをナマのまますりおろして水と砂糖をちょっぴり加え、さらにレモン汁を適当に入れるだけのことである。このジュースを日ごとにつくり一合ずつご用に立てるのである。強精効果満点のものとしてはレバーの塩焼とか、ニンニクとか、いろいろにいわれるが、トウガラシもまた強壮食料として著名である。ニンジンのソップは胃や肝臓の病にもきくというから、どっちに転んでも損なことはない。

　また果実では、ユズ（柚子）の実が老眼の防止薬だといわれるが、これはニンジンに匹敵するビタミンAやCが存在するためであろう。漢方では心臓は赤い色を好み、肝臓は青色をこのむとされ、赤はビタミンA（カロチノイド）を示し、青はCを現わすが、ユズの外皮は強壮剤に用いられる。

　同じ果実の類でもスイカの赤いのはリコピンによるのでカボチャやトマトなどとちがいビタミンAの効力は少ない。その量はユズの二十分の一ぐらいであるらしい。ましてタネなしスイカが若奥さんたちの注目をひいたのは――タネがなければ熟れるはずがない――からなのであって、薬効の上では単なる清浄食として利尿の役目を果す程度に知られている。

　しかし、タネなしスイカが実際には花粉の授精をカタワにする不妊症であっても、ホルモンの作用はあるから心配なく熟れるということである。

　不妊症といえばバナナもタネのない仲間であるが、バナナにタネがないのを気にしたというご婦人にいまだ出あったことはない。また「甲州ブドウはタネごと食べる」といって、果肉のスッパイ紫水晶のタマをトロリとのみこむ地元の女性は情に厚いといわれているが、一度でいいからその情愛に接してみたいものである。すなわちタネなしスイカに関心をよそおう若奥さまの胸のうちが、どうやら読めそうである。

　薬草では、赤い顔をしなければ、その名がいえないサネカズラという強壮剤があって、その粘液は頭髪のクセを直すのに用いられ、果実は強壮のほかに健胃剤としてせんじてよいといわれるから、自然の妙とは不思議なものである。不思議といえば、私がいま試飲中である精製天然樹水ホッスイの効果もまたアーニズム会員の間ではひそかに話題となっているしろものである。

　また、精がつくからウナギを食べなさいということを聞くが、これは成長ビタミンといわれるくらい少年少女の発育上欠かせないビタミンAを多量に含んでいるからである。

　むかしから、トリメをなおすにはウナギがよいと伝えられるほど、眼の病気に対する効力は絶大である。従って、精がつく、という言葉は官能的なものでなく、いわゆる筋にして要を得たまことにすばらしい日本的な表現である。

　ところがニンジンが好きだとか、またはウナギをたべたい、などというと、相手はニタリとして相恰をくずすから奇妙である。また同じ意味でホルモンの話が出ると、知識階級の間でも「おい、おい」と冷やかされるから不思議である。

　ウナギは昔、狄生租来とか平賀源内とかの宣伝によるとかで、土用ウナギはおびただしくさばかれるが、貧乏人仲間ではせめてもの半強精食としてドジョウを購い、八幡巻にするのが精一杯である。

　ところが戦後は、そのような代替ものが著しく値上りを示し、所得倍増論のさなかでも私たちのようなサラリーではおのれの指をくわえているにすぎなかったのである。

　そこで、何かウナギやドジョウに代わるものがないかと貧の浅ましさから調べてみると天の助けか代替食のあることがわかった。それは何かというと、見た眼にも美しいスマートなイカナゴである。ドジョウなんかは下手に近づけないほどビタミンAやBに富んでいるのである。バターやチーズはもとよりのこと、天然ホルモンと称される牛のキモに匹敵するビタミンが含まれていることがわかった。幸いこのビタミンは煮ても失われないし、水にも溶けない性質をもっているし、パントテン酸やコンドロンなどとちがって、くすりをのむという変な気分でなく、料理がたのしまれ、かつ値段もごく安いから理にかのうていると思われる。

　したがって話好きはビール党、色ごのみはウナギ党など、とかくヒガまれる恐れがないからまことに天下太平である。とはいうものの、せんじつめれば漁師自身、誰も彼もがイカナゴをもっと召し上って下さいというのがホンネであって助平談義をダシにして、じつはイカナゴのP・Rをこころみた次第である。

昭和四十年度

漁村育英生の募集要領

　昭和四十年度漁村育英生の募集を左記要領でいたします。希望者がありましたら四月十五日までに、本会へ必着するよう希望者の人数を御回報下さい。

記

一、希望者の資格

　兵庫県下の漁業協同組合又は同連合会に属する組合員もしくは職員の子弟であって品行方正かつ身体強健で、学資の支弁が困難であると認められる者で高等学校の水産に関する専門の学科に在学しているもの、大学又はこれと同程度の学校に在学しているものであること。

　但し、日本育英会その他公私団体又は、個人より奨学金又はこれに類する金品を受けているものは、本会の育英生になることは出来ません。

二、必要書類

イ、戸籍抄本
ロ、履歴書及び写真（名刺判）
ハ、在学証明書
ニ、育英資金貸与申込書
ホ、推せん書及び家庭状況調書
へ、学校長が作成した推せん書（成績書）
ト、知能指数票
チ、健康診断書

　右記のうち、イ〜ハは、あらかじめ希望者は用意しておくこと、

　ニ〜チの用紙は希望者数の報告により、必要枚数を本会より後日組合あて送付する。

神戸市兵庫区新在家町
水産会館内
財団法人兵庫県漁村育英会

樂餓鬼帖

(15)

漁村づくりは　人づくりから

（三月廿一日夜十時自宅にて）

　まるでお通夜のように、議長と事務局長が説明する議案に対して賛成でもなければ反対でもなく、わかったでもなく、解らぬでもなく通知に示した議事が済めば、ぞろぞろと帰ってゆく。

　そんな一コマもこまりものだが、神聖な総会へ酒気を帯びて出席し、心ある人のひんしゅくするのもかえりみず、まるで熱海の海岸で浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷したようなトンチンカンな発言をしたり、会議の流れをかきまわすようなことを言って得々としている。

　組合の総会に限らず、総会と名のつくものにはそんな輩がチョイチョイ飛び出す。

　これも又弱ったものだ。

　ぼくらの組合も回を重ねて、今年で十六回目の通常総会を終ったが、総会全体のあり方として少々疑問の点もあったが、今までよりも活溌なそして勝手な質問が出されたということは、ぼくとしては一応前向きの姿勢がとられてきたというように解釈している。

　組合の進むべき方向と目標をきめる大事な総会であれば、会議の正しい心得というものをまずみんなに体得してもらい来年の総会は又一歩前進し、させなければならない。

　数日前、神戸新聞社の方がお見えになって、漁村の現状などについていろいろ笑談した中でぼくは「漁民にはエチケットとか、マナーに欠けている」という点にふれたが、自然の脅威と闘う海の男たちから野性味を、はぎとってしまったら、荒波にもまれ、寒風にさらされながらの労働が出来るだろうかと、後で悔いてはみたが、現在に処してゆくためには、現代感覚を少しでも身につけ、漁民としてのマナーは一応心得ておくべきだと感じた。

　幸い組合には組合事業について、組合員の智識の向上を図るための教育が必要だと定款に載っている。ぼくはこのことが何よりも大事だと思い、数年前、役員会の了解を得て婦人部と青年部をつくってぼくは、ぼくなりに県や市の指導に基づいて一生懸命やったつもりだが、こころない一理事の悪評にあい、初志半ばにしてやめてしまったが、やがて一つになる運命にある組合が、如何に建物を新しくし、荷さばき所を立派に完成しても、これらに魂を入れる数多い漁民のレベルやセンスが低いとなれば、仏作って何とやらで永遠に明るい楽しい漁村はこないだろう。

　池田前宰相がおっしやったように、国づくりは先づ人づくりからだとすれば、やはり漁村づくりもまづその人づくりから始めなければならないだろう。

　人はみな目に見えて、はや効きのするものには心するが、みえないものはおろそかにしがちである。

　それではいけない。

　このことは、ほんとうにみんなで慎重に考えなければいけない問題だと思う。

　ぼくは総会の日に組合員の質疑や、議長の応答を聞きながら、そんなことを考えていた。

　そして来年は今年よりも飛躍した総会の演出者となり、トランキライザーとなるためには、平常組合員の声を心して真に血の通った組合の事務に精励し、役職員が組合員の信頼を得るように心懸けねばとも考えてみた。

（山上健蔵）

（3頁より）

したことだろう。ラットを握って一服する船頭もハンドル前に坐った機関士も、魚をよる者も網をつくろう者も誰もかれも、カニを魚船一杯積んで船足がズッしりと重ければ重いほど心は軽かった事だろう。

　「早く後片付けをして一とネムリすれば柴山の港だ。」

　真暗な海上あちこちの白い光は北西風に砕け散る波頭か、海の牙か。海運丸は激しくローリングし乍らも勇しく追風に乗って帰路を急いでいた。しかし、それから30分程たった時、海運丸で悲しいことが判ったのだ。「乗組員の一人、道具係の米村薫一さんが居ない。」ということ。

　船長は突嗟に船の反転と減速を命じ、米村さんの姿を暗い海上に求めたに違いない。同時に附近操業の底曳船に捜索依頼の緊急通信を発したことだろう。米村さんは船の道具係で船が帰路についた時、殆んどの人が船の前の方で後片付けをしているのに船尾で唯一人作業をしていたらしい。一週間位い眠むらずに航海を続けたら、どの位疲れてしまうかは太平洋戦争の末期海軍の輸送艦に乗って、私も僅か乍ら経験したので底曳船員のことも多少は判るような気はする。北千島の占守島で、事もあろうに高角砲を荷役の最中、ウインチを操った儘崩れるように眠むってしまったのだ。立っておれば良かったのだが、つい腰を降してハンドルを握ったのが悪かった。ともかく、陸地も目の前だし潜水艦も先ず来ない港の中という安堵感もあったのだろうが、過去数日の航海中殆んど寝ていない疲労が体力の限界を越えていたのだと思う。

　39才、船員としては油の乗り切った熟練者の筈の米村さんが、どうして海に落ちたのだろうか。

　激しく揺れ動く薄暗い船上で何かにつまづいたのであろうか。揺れる拍子に船員室の上から落ちて来た何かに頭でも打たれたのであろうか。オモテに行く用事を急に思い出して、素早くレールの上を小走りに走りかけた時、足にロープをからませたのだろうか。

　今は誰もそんなことは判らない。

　唯、判っていることは米村ちんも皆んなと同じように睡眠不足で非常に疲れていたことだけだろう。

　深夜の海上に投げ出された米村さんは一度は深く沈んだけれども、すぐ海面に頭を出して大声に叫んだに違いない。声を限りに必死の救けを求めたに違いない。大きく開いた口から何回海水を飲まされたことであろうか。

　しかし、その当時現場海上は海上保安部の巡視艇さえ出動出来ない程に荒れていたというのだから、米村さんの必死の叫びも遂に海運丸にまでは届かず、空しく暗い洋上に消えて行ったのだ。そして、たった今まで自分が乗って居た船の船尾灯も、ゆれ乍ら暗い闇の彼方に無惨に遠ざかり、やがて見えなくなって終った時、米村さんは何を思ったであろうか。

　唯生きることだけを考えて夢中に泳ぎ続けたのだろうか。

　それにしても荒化の夜、水温10度の冬の日本海にどれ程の時間持ちこたえられたことか。氷の中に入れられたような寒さに下半身の感覚が次第に薄れて行くのを知った時、米村さんはボンヤリした意識でいよいよ俺は死ぬのかも知れないと思ったことだろう。

　どんなにか悲しかった事だろう。つらかった事だろう。苦しかった事だろう。

　物心ついてからの今日までの色々な楽しかった事、悲しかった事が夢のようであったと思っただろうか。愛する子供達だけは、きっと元気でいてくれと神に祈った事だろう。

　そして米村さんの短い生命の火が消え行く最後の一瞬、殆んど視力のなくなった目に写ったものは、海の見える故郷の丘で若い母親の胸に抱かれている幼い頃の自分自身の姿ではなかただろうか。

　米村さんはもう帰らない。

　それから三日たった日、柴山港の海岸で悲しみうのちに米村さんの浜施餓鬼が行なわれた。この日も曇り空に北西の風が強く吹き荒れていた。

　ここ一年ほどの間に但馬の漁民が四人も遭難死している。

　もう二度とこのようなことがあってはならない。漁業界は勿論、国も県も、もっともっと真剣に海上の安全を考えなければならない時期だと思う。

　米村さんをはじめ四人の遭難漁民の御冥福を心より祈ります。

（終）

◇
◇
◇
オールトランジスタ
FC 10
無接点方式
NEC
の技術を誇る
画期的な沿岸漁業用魚探機
海上電機株式会社
本　社　東京都千代田区神田錦町1〜19　電話東京（291）2611〜3・8181〜3
神戸営業所　神戸市生田区明石町32(明海ビル)　電話（3）2628・3701（39）2380
◇
◇
◇